

## 祝 民の力を最大限に生かし 元気で躍動する宮城を

一般社団法人宮城県建築士事務所協会が創立60周年を迎えられるに当たり、一言お祝い申し上げます。貴協会におかれましては、昭和36年の設立以来、県内の建築士事務所の業務の適正な運営の支援をはじめ、県民からの相談活動など建築業の権利保護にも貢献されているほか、建築士法に基づく指定事務所登録機関として建築士事務所の登録事務や指導を実施されており、本県における建築文化の発展および公共の福祉の増進に大きく寄与してこられました。また、木造住宅耐震助成事業による耐震診断の実施や、宮城県建築物等地震対策推進協議会の活動などを通じて、建築行政の推進に日ごろからご協力いただき、心から感謝と敬意を表します。

東日本大震災の発生から間もなく11年が経過します。これまでの間、県では、貴協会をはじめ、県内外の方々の多大なるご支援のもと、全力で復旧・復興に向けて取り組んでまいりました。これまで多くのご支援をいただいた皆さま方に心より感謝申し上げます。

県では、平成19年3月に「宮城の将来ビジョン」を策定し、県政運営の理念「富県共創！活力とやすらぎの邦(くに)づくり」の実現に向けさまざまな事業に取り組み、「県内総生産10兆円への挑戦」については順調に推移した一方、少子化対策などについては、多様化する社会ニーズに柔軟に対応していく必要があります。

また、平成23年10月に策定した「宮城県震災復興計画」においては、「復旧」にとどまらない抜本的な「再構築」などの基本理念の下、復旧・復興に向けたさまざまな取り組みを進め、ハード面については多くの地域で取り組みが完了した一方、被災者支援などのソフト面については今後も中長期的な対応が必要です。

本格的な人口減少、地域経済・社会の持続可能性の確保、大規模化・多様化する自然災害、新型コロナウイルス感染症の感染拡大といった時代の転換期に直面する中、その先にある宮城の明るい未来を描いていくことが求められています。

県では、これまでの「宮城の将来ビジョン」や「宮城県震災復興計画」等に掲げる理念を継承し、一つの計画に統合するとともに、今後見込まれる社会の変化等を踏まえながら、将来の宮城のあるべき姿や目標の実現に向けて取り組むべき施策を明らかにする「新・宮城の将来ビジョン」を令和2年12月に策定しました。

「宮城県震災復興計画」を受け継ぐ「被災地の復興完了に向けたきめ細やかなサポート」と、政策推進の基本方向である宮城の未来をつくる4本柱、「富県共創を支える県内産業の持続的な成長促進」「誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会づくり」「強靱で自然と調和した県土づくり」「社会全体で支える宮城の子ども・子育て」の「1+4」の柱の下、県政を推進してまいります。

震災からの復興を成し遂げ、県民一人ひとりがいつまでも安心して暮らせる宮城、元気で躍動する宮城を県民の皆さまとともに築き上げてまいりたいと考えておりますので、皆さま方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。結びに、貴協会の一層の御発展と会員の皆さまのご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。



宮城県知事  
村井 嘉浩

## 祝 笑顔咲く「新たな杜の都」の 実現に大きな役割を

この度は、宮城県建築士事務所協会が創立60周年を迎えられることを、心よりお祝い申し上げます。貴協会におかれましては、研修会や講演会等の開催により、会員であります建築士事務所の技術力向上にご尽力なまわりますとともに、建築に係る身近な相談窓口である「みやぎ建築相談所」の設置や建築主等からの苦情解決に取り組まれるなど、日ごろよりさまざまな活動を通じて健全かつ安全なまちづくりならびに良質なストック形成に貢献されておりますことに対し、改めて深く敬意を表します。

また、本市に甚大な被害をもたらした昭和53年の宮城県沖地震や平成23年の東日本大震災の経験から、命を守る上で建物の安全性向上が非常に重要であることを痛感しており、震災に備えて貴協会が担っている木造戸建住宅の耐震診断支援や、応急危険度判定士の派遣による避難所の安全確認支援、さらには空き家の未然防止に向けた既存住宅の活用相談対応など、貴協会には本市の安全安心のまちづくりにおいて大きな役割を担っていただいておりますことに対し、重ねて御礼申し上げます。

貴協会が創立された昭和30年代の本市は、戦災で焼失した中心市街地の復興事業が行われ、旧来の城下町的様相から近代都市の市街地へと生まれ変わる変革の時期でした。当時、整備された青葉通、定禅寺通、東二番丁通等の広幅員の幹線道路を有する街並みは、ケヤキ並木に彩られ、昭和から平成、そして令和へと時代が移り変わる中で、常に市民に憩いと潤いを与えながら、「杜の都」を象徴する顔として、多様な機能が集積し、魅力・活力にあふれた東北を代表する都市の発展を支えてまいりました。

その都市に佇む建物は、社会活動や生活を支える器としてだけでなく、優れた都市景観を形成する非常に重要な資産であり、今日の緑豊かな自然と都市機能が調和した仙台の街並みは、貴会員の皆さまの高度な技術力と卓越した想像力によるのが大きいと考えております。

本市は、令和3年3月に新たに総合計画を策定し、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ『The Greenest City』SENDAI」を理念として掲げ、今後10年間のまちづくりを進めるスタートを切ったところです。社会情勢や価値観の変容に柔軟に対応し、変革とチャレンジを続けながら、人との絆や先人が築き上げてきた杜の都の風土を未来に引き継いでいくために、民間開発や企業立地の促進を図る都心再構築や、再生可能エネルギーの導入をはじめとする脱炭素都市づくり、緑地の保全ならびに良好な都市景観の形成等による歴史と文化が息づくまちづくりなど、さまざまな取り組みを通じて、仙台のポテンシャルを高め、世界から選ばれたまちとなるよう取り組んでまいります。

市役所本庁舎の建替えや仙台駅周辺の大規模民間開発の機運の高まり、都心まちづくりの核となる定禅寺通の活性化など、仙台の未来を形作るプロジェクトはすでに始まってまいります。貴協会および会員の皆さまにおかれましては、笑顔咲く「新たな杜の都」の実現に向け、今後ともお力添えをたまわりますようお願い申し上げます。結びに、貴協会のますますのご発展ならびに会員の皆さまのご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



仙台市長  
郡 和子

## 祝 時代の転換期の今、未来に備え 持続可能な発展へ

貴協会創立60周年おめでとうございます。長い年月に亘って会の発展に尽力されてきた歴代会長をはじめ役員、会員の皆さまの努力の賜物であり心よりお慶び申し上げます。特に東日本大震災以降のこの10年は、震災からの建築物復興と宮城県民の住生活再建に多大な貢献をした10年であり、貴協会にとっても特筆すべき10年であったことを想いすると、貴協会の労苦、関係の方々への日事連としても心より感謝と60周年のお祝いを申し上げます。

貴協会が東日本大震災後、いち早く設立された宮城県建築復興支援センターを全国的に支援する形で日事連も参加し建築復興支援センターが平成23年6月に設立されました。被災者の不安解消と住宅再建の相談に迅速な現地派遣等を行い積極的に対応してきました。罹災調査には会員事務所1万4,000名余が協力し住宅復興に大いに寄与されました。被災者の安心と被災建築物の安全に貢献したことは一般社会から高い評価を受けました。

また、熊本地震においては復旧復興再建について熊本県建築士事務所協会の要請を受けて、経験を生かし全国の仲間を支援する役目も果たして貢献されました。近年は気候変動の影響もあり自然災害の頻発が懸念され、コロナ禍に加えて今年も水害が全国で発生しています。さらにこの2年はコロナ禍の影響で協会活動も自粛しがちですが、自然災害を克服し、専門家として安全安心の家づくり街づくりに貢献し、アフターコロナの未来を見据えて進むべきであると感じています。貴協会がその先頭で自然災害復旧の貢献活動を進められたことに敬意を表する次第です。

災害復興支援のみならず社会貢献の一環として、将来建築を志す、建築系学科を有する県内高校や専門学校の学生対象に『みやぎ建築未来賞』表彰を実施して将来の人材育成に積極的に貢献しておられることは素晴らしいことと称賛申し上げます。市民文化団体や官学を巻き込み広範な広がりをもって、また、今年27回目を数える継続的活動で社会貢献してきました。この長い歴史の中で多くの若者が、この賞に背中を押され自信をもって建築設計界に巣立って行ったことは、間違いなく大いに人材育成に貢献してきたと確信しています。

これからの10年を想像しますと耐震性向上や頻発する自然災害対応に加え、時代の転換期の今、未来に備えたデジタル化やグリーンリノベーションも重要となっています。建築設計界を取り巻く環境は、BIMや業務改革を含むデジタル化の急激な波、2050カーボンニュートラルを目標とする取り組み、SDGsの推進と課題は山積みです。日事連では未来を見据えて『単位会組織強化支援事業』に注力し協会のサステナブルな発展に努めています。

苦難の10年の中で大震災からの復旧・復興に努めた貴協会の活力と情熱は、この60周年を迎えられたことを機に、新しい時代への新たな発展へと結びつけられるものと確信しています。結びとなりますが、貴協会の益々ますますの発展と会員の方々のご健勝を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



一般社団法人  
日本建築士事務所  
協会連合会 会長  
兎玉 耕二

## 宮城県建築士事務所協会 60年のあゆみ

<ul style="list-style-type: none"> <li>1961年(昭和36年) 戦後の戦災復興諸制度の改革により設計事務所の開設者が急増する中、会員16人で任意団体「宮城県建築設計家協会」を設立し初代会長に横山芳夫氏就任</li> <li>1962年 全国建築士事務所協会連合会から入会勧誘を受け</li> <li>1966年 仙台商工会議所から「仙台市内建築物の設計受託」</li> <li>1967年 「仙台商工会議所」設計協力会を発足(会員13人)</li> <li>1970年 「仙台市商工センター」が完成し、同設計協力会を解散</li> <li>1972年 創立10周年記念祝賀会を開催し法人化実現決議案を採択し特別委員会を設置</li> <li>1976年 新任会長に芳賀仁氏就任(仙台市と東北6県関係団体が懇話会)</li> <li>1977年 創立15周年記念祝賀会を開催</li> <li>1980年 規約改正により準会員、賛助会員を設ける</li> <li>1981年 「宮城県建築士事務所協会」に名称変更し、社団法人化し日事連に入会</li> <li>1984年 第4回総会で日事連第11回全国大会宮城大開催を決議</li> <li>1986年 仙台市市民会館で日事連第11回全国大会を開催、全国から約1,000人が参加</li> <li>1987年 新任会長に安倍政氏就任</li> <li>1988年 準会員制度廃止</li> <li>1989年(平成元年) 仙台市に業務所を開設し、設置告示第1206号の順守を要望</li> <li>1990年 建設告示第1206号周知徹底のため記者会見、東北地方建設局長、仙台市に要望</li> <li>1991年 創立30周年記念式典</li> <li>創立30周年記念事業の建築賞・まちづくり賞入賞作品を発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1992年 新任会長に千田仁氏就任(賛助会「ビューバー」会 結成)</li> <li>1994年 初の会員全体会議を開催し建築無料相談を開始</li> <li>1995年 宮城県と意見交換会を開催</li> <li>1996年 県内の工業高校、専門学校、短大建築科の卒業生を対象に「卒業設計作品展」を創設</li> <li>1998年 鈴木弘人氏が会長就任(青年部会を創設し仙台支部創設)ホームベジ</li> <li>1999年 第1回政経フォーラム開催(青年部会が第1回リレークチャイ</li> <li>2000年 仙台支部設立(1円入札問題で東和町に要望書提出)</li> <li>2001年 創立40周年記念式典を開催(仙北支部、石巻支部設立)</li> <li>2002年 新任会長に平田日良氏就任(建築設計6団</li> <li>2003年 「宮城県建築設計事務所協会」に名称変更し、まちづくりに懇話会を組織(仙北支部、石巻支部、仙台支部で応急危険度判定支援)石巻支部設立</li> <li>2004年 耐震診断促進室設置、全体会議開催(新潟中部地域で県庁の要請を受け応急危険度判定支援)中学校防災ボラティア活動支援(松高中学校)</li> <li>2005年 ホームページリニューアル</li> <li>2006年 建築構造計算書偽装問題に関する設置検査問題133棟(設置検査数133棟)社会問題として東北税理士会館を取得し、宮城県建築設計会館を開設(新業務報酬基準算</li> <li>2010年 50周年記念事業の一環として旧東北税理士会館を改修し、宮城県建築設計会館を開設(新業務報酬基準算</li> <li>2011年 東日本大震災で応急危険度判定、被災地へ日事連と共同で建築復興支援センター設置(みやぎ地域復興住宅連続協議会)事務所登録業務開始へ定款改正(2011年6月)</li> <li>2013年 木造建築研究会を設置(2016年)</li> <li>名取市に建設を進めていた「みんなの木村資料館」が完成(2016年3月)</li> <li>構成員である宮城県木造応急仮設住宅建設協議会が宮城県、仙台市と災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定締結(創立60周年記念事業の一環として)会員事務所のためのBIM活用セミナーを開催</li> <li>宮城県七ヶ浜町に建設した地域復興モデル住宅を七ヶ浜町に寄贈(石巻市と地震災害時の応急対策活動協力に関する協定締結(2012年3月))</li> <li>リフォーム・リノベーション研究を推進(2017年)</li> <li>石巻市での木材加工施設見学ツアー(2017年6月)</li> <li>石巻市と地震災害時の応急対策活動協力に関する協定締結(2017年9月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2007年 改正建築士法にあわせ「宮城県建築士事務所協会」に名称変更(大崎支部設立)改正建築基準法対応委員会設置</li> <li>2008年 みやぎ建築未来賞を創設、公開審査開催</li> <li>2009年 C/D制度創設(建築設計サポートセンター)開設(国土交通省告示15号の新設計報酬基準をめぐり設計3団体意見交換)新業務報酬基準の順守と依頼規定の削除を県内市町村に要望(2009年3月)</li> <li>2010年 仙台市に建設を進めていた「みんなの木村資料館」が完成(2016年3月)</li> <li>2013年 木造建築研究会を設置(2016年)</li> <li>名取市に建設を進めていた「みんなの木村資料館」が完成(2016年3月)</li> <li>2016年 仙台市に建設を進めていた「みんなの木村資料館」が完成(2016年3月)</li> <li>2017年 仙台市に建設を進めていた「みんなの木村資料館」が完成(2016年3月)</li> <li>2018年 新任会長に高橋清秋氏就任(仙台市と空き家向け相談体制の構築に関する協定を締結)</li> <li>2019年(令和元年) 設計3団体(宮城県内市町村に最低制限価格・低入札価格調査基準整備の設定や引き上げを求める合同の要望活動を展開)</li> <li>防犯カメラの設置を再認識するための津波避難ビル見学(青年部会)2019年7月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2006年 創立45周年記念事業の企画を仙台市に要望(女性部会発足)新任会長に栗原恵昭氏就任(創立45周年記念式典)2010年5月</li> <li>みやぎ地域復興住宅連続協議会(2011年10月)</li> <li>グランドオープン(児童養護施設小学生から高校生100人)</li> <li>2006年 創立45周年記念事業の企画を仙台市に要望(女性部会発足)新任会長に栗原恵昭氏就任(創立45周年記念式典)2010年5月</li> <li>みやぎ地域復興住宅連続協議会(2011年10月)</li> <li>グランドオープン(児童養護施設小学生から高校生100人)</li> <li>2006年 創立45周年記念事業の企画を仙台市に要望(女性部会発足)新任会長に栗原恵昭氏就任(創立45周年記念式典)2010年5月</li> <li>みやぎ地域復興住宅連続協議会(2011年10月)</li> <li>グランドオープン(児童養護施設小学生から高校生100人)</li> <li>2006年 創立45周年記念事業の企画を仙台市に要望(女性部会発足)新任会長に栗原恵昭氏就任(創立45周年記念式典)2010年5月</li> <li>みやぎ地域復興住宅連続協議会(2011年10月)</li> <li>グランドオープン(児童養護施設小学生から高校生100人)</li> <li>2006年 創立45周年記念事業の企画を仙台市に要望(女性部会発足)新任会長に栗原恵昭氏就任(創立45周年記念式典)2010年5月</li> <li>みやぎ地域復興住宅連続協議会(2011年10月)</li> <li>グランドオープン(児童養護施設小学生から高校生100人)</li> <li>2006年 創立45周年記念事業の企画を仙台市に要望(女性部会発足)新任会長に栗原恵昭氏就任(創立45周年記念式典)2010年5月</li> <li>みやぎ地域復興住宅連続協議会(2011年10月)</li> <li>グランドオープン(児童養護施設小学生から高校生100人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年(令和元年) 設計3団体(宮城県内市町村に最低制限価格・低入札価格調査基準整備の設定や引き上げを求める合同の要望活動を展開)</li> <li>防犯カメラの設置を再認識するための津波避難ビル見学(青年部会)2019年7月</li> </ul>
---	--	---	--	---

### 最近の施工実績

宮城県東松島市	鳴瀬桜華小学校
宮城県仙台市	仙台南高等学校
宮城県仙台市	総合交流センター
山形県村山市	橋岡小学校
山形県東根市	神町小学校
福島県広野町	ふたば未来学園 中学校・高等学校
福島県郡山市	日和田中学校

プールと水遊び、温浴施設の総合メーカー

**株式会社 ニッコソ**

仙台営業所/仙台市青葉区本町1丁目1番1号  
大樹生命仙台ビル(アジュール仙台)  
TEL.022(227)8484  
FAX.022(227)8488

本社/東京都新宿区下落合3丁目16番10号(大明ビル)  
TEL.03(3954)0111  
FAX.03(3954)0150  
http://www.nicconpool.com

### 宮城県建築士事務所協会 創立60周年 誠におめでとうございます。

顧客満足度 No.1

総合満足度 No.1

外部評価も実績も

No.1

カリキュラム充実度  
設備体制(学習環境)の充実度  
価格の満足度  
リピート満足度

担当者の最適なコース提案力  
職員の対応サポート力  
感染対策の満足度  
使用教材の満足度

日本マーケティングリサーチ機構 調査期間:2021年9月9日 顧客満足度調査

日建学院 平成元年~令和3年の合格実績

1級建築士 合格率 16.5/59.4

**No.1 93,110人 56.1%**

この33年間に誕生した1級建築士の半数以上が日建学院の受講生です!

あなたの夢、応援します。

**日建学院 仙台校 TEL.022-267-5001**

### 非溶接工法

高強度樹脂接合方式

いままでの常識

これからの常識

従来の鉄筋溶接工法

溶接を用いない安心・安全の新工法

これまで当たり前のように用いられてきた鉄筋溶接によるRC造建築物のサッシ工法は、さまざまなリスクを抱えています。

非溶接工法は粘性的な樹脂でアンカ一部分を覆い、樹脂の硬化によりサッシを躯体に固定する業界初の新工法です。無火災でかつさまざまなリスクが回避されます。

YKK AP株式会社

https://www.ykkap.co.jp/search-b/

建設新聞社

# 次世代に引き継ぐ活動を展開 高橋清秋会長に聞く



高橋清秋会長

●高橋会長は20年前から理事を務めています。協会の活動で印象に残っていることは、

●創立60周年を迎えました。高橋 先輩たちが任意団体として宮城県建築設計家協会を立ち上げて以来、今日60周年を迎えることができました。

●高橋 理事に就任した後、2003年に宮城県北部を震源とする北部連続地震が発生しました。鳴瀬町、矢本町、河南町周辺で大きな被害が発生したため、協会が応急危険度判定に協力しました。次の年の04年には、新潟県中越地震が発生し、宮城県を通して応急危険度判定の支援要請がありました。会員から支援を募り、わたしが陣頭指揮を取る形で協力しました。3日間の活動を終え帰県しましたが、思ふことがありました。

●東日本大震災での具体的な対応は、高橋 地震発生後から1万2540件、延べ521人で応急危険度判定を行いました。16年の熊本地震発生後には、これら対応状況の資料提供のほか、レクチャーも行っています。多くの災害を経験した私たちの役割は、これから起こるであろうという本地震発生後の資料提供のほか、レクチャーも行っていきます。多くの災害を経験した私たちの役割は、これから起こるであろうという本地震発生後の資料提供のほか、レクチャーも行っていきます。

●新潟県中越地震きつかけに 応急支援体制構築へ

●被災者支援建築相談を継続中 (丸森町)

●令和元年台風19号の被害では被災者支援建築相談も行っています。

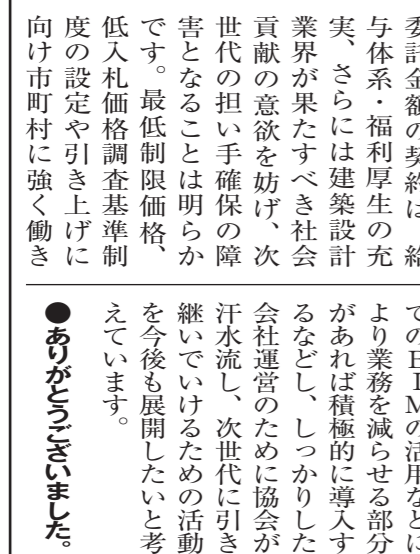
●2006年に女性部会が設置されました

●今後の協会活動の展開は

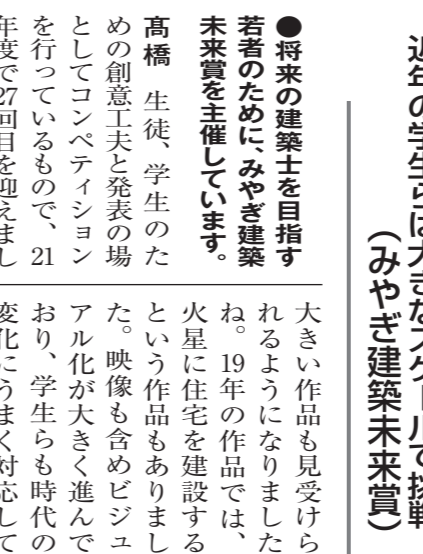
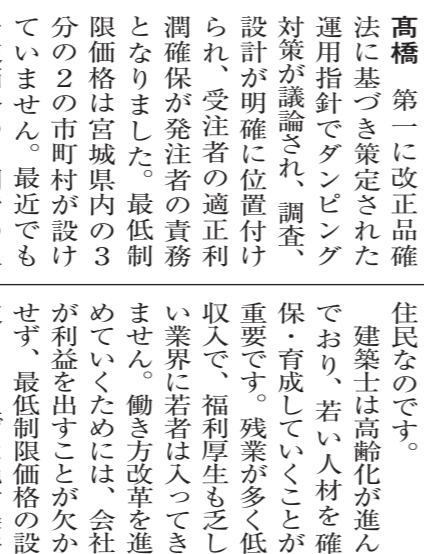
●低入札の問題など強く働きかけ 若い人材の確保育成が重要

●復旧支援センター立ち上げ 再建相談など実施

●近年の学生らは大きなスケールで挑戦 (みやぎ建築未来賞)



台風19号に被害を受ける建設相談窓口



●創立60周年 おめでとうございます。 賛助会 会員一同

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください

●気をつけてください